

バス運行に向けた検討について

1 これまでの経緯

北海道新幹線札幌延伸に伴い経営分離される函館線（長万部・小樽間）については、本年3月の後志ブロック会議において、地域交通の確保方策の方向性を「バス方式」とすることを確認した。

このことを踏まえ、現在、バスを中心とした新たな公共交通ネットワークの構築に向けて、沿線自治体の意向を踏まえながら、バス事業者も参画した「区間別検討会」の中で協議・検討を進めることとしている。

2 検討内容等

(1) 基本的な考え方

バスルートの検討に当たっては、多様化する地域ニーズや地域の実情を踏まえたバス路線とすることが重要であり、これまでの協議会での議論を踏まえ、次の「基本的考え方」に基づき、沿線自治体と関係者との間で方向性を共有しながら検討・協議を進めていく。

また、持続可能な公共交通の確保に加え、バスロケーションシステムや交通系ICカードの活用など、利便性を高める取組について検討を進める。

<バスルート・ダイヤの設定における基本的考え方>

	検討の方向性
移動手段の確保等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の鉄道運行の実態を踏まえたバスダイヤの検討 ・ 移動手段の確保に向けた新たなバスルートの検討 ・ 交通結節点となる乗継ぎ拠点等の整備に向けた検討
利便性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存バス路線も含め、利用実態に応じたバスルート・ダイヤの検討 ・ 通勤・通学、日常生活や観光など地域ニーズに応じたダイヤの検討
速達性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスの機動性を活かした目的地（高校・病院等）へ直行できるバスルートの検討（出発地から目的地までの所要時間の短縮の検討等） ・ 高速道路を活用したバスルートの設定

(2) 区間別検討会の設置（令和4年3月設置）

バスルートの検討については、「長万部・小樽間」を現在の鉄道の利用状況やそれぞれの地域の実情を踏まえ、「①長万部～黒松内」「②黒松内～倶知安」「③倶知安～余市」「④余市～小樽」の4つの区間ごとに考え方や課題を整理し、具体的なルートを検討する。

なお、検討にあたっては、バス事業者も参画した「区間別検討会」を設置し、バス運行に必要な項目等について検討・協議を行う。

<主な検討項目>

- ① 運行形態（既存ルートとの調整、補助・委託等）
- ② ルート・運行本数・ダイヤ ※実態把握のための調査等も検討
- ③ 乗継ぎ拠点（駅舎の活用等）・バス停留所
- ④ 車両タイプ（ハイデッカー、ノンステップバス、マイクロバス等）
※バスロケーションシステムや交通系 I C カードの活用などは幹事会で検討

<区間別検討会開催状況>

- ・ 令和4年4月12日 検討事項の整理、今後の進め方等
- ・ 〃 5月11日 バス運行に向けた検討（ルート等の協議・課題精査）等

3 バスルート（案）の検討について

別添「資料1-2」のとおり

4 その他

（1）函館線（長万部・小樽間）の利用実態調査の実施

バスルート等の設定に向けて、線区の利用実態を把握するとともに、運行経費や車両購入費等の試算に必要なデータを収集する。

- ・ 実施予定日：令和4年7月15日（金）～17日（日）の3日間（高校の夏休み前）
- ・ 実施主体：沿線市町、道（交通企画課・後志総合振興局）
- ・ 実施方法：J R 駅（長万部～小樽間）における乗降人員調査
- ・ その他：同日にバス事業者も乗降調査を実施する予定

（2）利便性や速達性を高める検討事項

- ・ バスロケーションシステムの導入
- ・ I C カードの導入
- ・ 鉄道施設等の活用
- ・ バス停留所や乗継ぎ拠点の整備

（3）JR 北海道からの協力等

- ・ 既存駅舎の活用等（新たな拠点施設の整備など）
- ・ 鉄道施設の有効活用に向けた協力等
- ・ バス運行に向けた協力等

（4）環境配慮型バスの導入

- ・ 導入に向けた検討等